

主査・委員長からのメッセージ

平成27年度ガラス科学技術研究会

東京大学生産技術研究所

井上 博之

ニューガラスフォーラム発足30周年、おめでとうございます。20周年記念の特集を眺めると、ニューガラスフォーラムには3本の柱があり、第1はガラスの情報提供と会員相互の交流を図る基盤業務、第2はガラスデータベース「INTERGLAD」、第3は「ナノガラス技術」が挙げられています。作花済夫先生の巻頭言の中にも、成果として同じ項目が挙げられています。10年が経過して、「ナノガラス技術」に「革新的ガラス溶融プロセス技術」が加わっています。我々が開催している「ガラス科学技術研究会」は、この第1の柱に属し、「ガラス技術の新たな展開」や「最新の製品化事例」などを交えて「科学的理解と基礎技術の深化」について議論する場を提供するものです。平成27年度は、学・官・産の幹事4名（井上博之・北村直之・吉原聡・塩田勇樹）で年4回の研究会を企画しています。学に身を置く者としては、新しい機能や製造技術にも貢献できるような基礎的で本質的な様々な研究の成果を紹介できたらと考えております。第1回は、「シミュレーション技術の進展」と題して、旭硝子(株)の谷口健英氏、ファインセラミックスセンターのCraig Fisher氏、東北大学の平岡裕章氏を講師にお招きし、ガラス材料の構造シミュレーション、イオン伝導機構の解析、パーシステントホモロジー、と先進的な材料の分野のシミュレーションを紹介していただきました。第2回は、「無機生体材料開発」と題して、Ivoclar Vivadent AGのWolfram Höland氏、(独)産業総合研究所の大矢根綾子氏に講演をお願いし、結晶化ガラスと液相合成によるリン酸カルシウムを紹介していただきました。2015年度の後半は、12月に「立命館大学SRセンターの見学」、3月に「光学磁性材料」と続きます。技術交流会では、講演では中々聞くことのできない講師の先生の信条や、講演内容を支える膨大な実験や失敗などの貴重なお話を聞くこともできます。講演内容が、ガラス製造から少し離れると参加者が大きく減少しますが、知識や人脈は、深さとともに、広さも必要です。これからの研究開発に知識だけでなく、新しい展開へのきっかけとして利用していただけたらと思います。また、講演の分野や講師の方の希望も受け付けています。これまで以上に活発な議論の場として、また、交流の場として、本研究会を大いに活用していただけたらと思います。